

# MX200 || Dual Reverb Effects Processor



## MX200 2ch マルチエフェクター 取扱説明書

このたびは、本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。  
安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。  
この取扱説明書は、お読みになった後も、いつでも見られるところに保管してください。

**Lexicon** PRO



## ■安全上のご注意

取扱説明書には、お使いになる方や他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。以下の注意事項をよくお読みの上、正しくお使いください。

注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。

 <b>警告</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
 <b>注意</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

### 警告

- 水に入れたり、ぬらさないでください。火災や感電の原因になります。
- AC100V 50/60Hz の電源で使用してください。これ以外の電源では、火災や感電の原因となります。
- 必ず専用の電源アダプターを使用してください。これ以外のものを使用すると火災の原因となります。
- 付属の電源アダプターを他の製品に使用しないでください。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。コードが破損して火災や感電の原因になります。電源コードが傷んだら（断線や芯線の露出など）、直ちに使用を中止し販売店に交換をご依頼ください。
- 水が入った容器や金属片などを、機器の上に置かないでください。こぼれたり、中に入ったりすると、火災や感電の原因となります。
- 万一、落としたり筐体を破損した場合は、直ちに使用を中止し、修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災の原因となります。
- 雷が鳴り出したら、金属部分や電源プラグに触れないでください。感電の恐れがあります。
- 煙がでる、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常がある時は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。
- 分解や改造は行わないでください。お客様が保守できる部品は、内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となります。

### 注意

- 不安定な場所に設置しないでください。落下によるけがの原因となります。
- 以下のような場所に設置しないでください。
  - ・直射日光の当たる場所
  - ・湿気の多い場所
  - ・温度の特に高い場所、または低い場所
  - ・ほこりの多い場所
  - ・振動の多い場所
- 機器をラックに設置する場合は、重量を支えるために全てのネジをしっかりと固定してください。落下すると、けがや器物を破損する原因となります。
- 配線は、電源アダプターを抜いてから説明書に従って正しく行ってください。電源アダプターを差し込んだまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショート等は火災の原因となります。
- 電源を入れる前に、音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害などの原因となります。
- 機器の移動は、電源プラグをコンセントから抜き、他の機器との接続を全て外してから行ってください。
- めれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときに、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災や感電の原因となります。



## 目次

■安全上のご注意.....	2	●リバーブ.....	14
■目次.....	3	・リバーブのパラメーター.....	15
■はじめに.....	3	●ディレイ.....	16
●保証について.....	3	・ディレイのパラメーター.....	16
●故障かな?と思われる症状が出たときには.....	3	●dbx ダイナミクス.....	17
■梱包内容の確認.....	3	・dbx ダイナミクスのパラメーター.....	17
■クイックスタートガイド.....	4	●モジュレーション系エフェクター.....	18
●標準的なパラレル接続.....	4	・モジュレーション系エフェクターのパラメーター.....	18
●機器の電源を入れる.....	4	■システムメニュー.....	20
●音声レベルの設定.....	5	●システムメニューの詳細.....	20
●プログラムの選択と読み込み.....	5	■MX-Edit Editor/Librarian (Windows 版および Mac 版).....	22
■各部の機能と名称.....	6	●MX-Edit ソフトウェアのインストール (Windows 版).....	22
●前面パネル.....	6	●MX-Edit ソフトウェアのインストール (Mac 版).....	22
●背面パネル.....	7	●クイックスタートガイド.....	23
■ルーティング.....	8	●MX-Edit Librarian.....	24
■接続の構成.....	8	●プログラムを開く.....	24
●パラレルとシリアル.....	8	●「Program Editor」ウィンドウ.....	24
●パラレル接続のセットアップ例.....	8	●プログラムの編集.....	25
●シリアル接続のセットアップ例.....	9	■プログラムの接続したコンピュータへの保存.....	26
■プログラムの選択と読み込み.....	10	■プログラムのMX200 本体への保存.....	26
■エフェクターの変更.....	10	■アーカイブ.....	26
■パラメーターの編集.....	11	■ハードウェア・プラグインとしてMX200 を使用する.....	27
■その他プログラムの設定.....	11	●MX-Edit VST プラグインのインストール.....	27
●ルーティングの変更.....	11	●MX200 の接続.....	27
●ミックスの調整.....	11	●ソフトウェアの設定.....	27
●Tempo スイッチ.....	11	●MX200 PLUG-IN ウィンドウの使用法.....	28
●Bypass スイッチ.....	11	■CC マッピング.....	29
■オーディション機能.....	12	■MIDI インプリメンテーションチャート.....	29
■プログラムの保存.....	13	■プリセットリスト.....	30
■パラメーターの詳細.....	14	■MX200 仕様.....	32
●エフェクターの構成.....	14		

## はじめに

このたびは、MX200 をご購入いただき、誠にありがとうございます。MX200 は高品位なリバーブプロセッサーを搭載した 2ch マルチエフェクターです。1U のコンパクトな筐体にレキシコンの定評あるリバーブアルゴリズムを内蔵。ライブ SR からスタジオ・レコーディングまで多様な用途に対応します。さらに PC やマッキントッシュにハードウェア・プラグインとして接続できるため、DAW で制作した音源に極めて臨場感あふれるリバーブ効果を加えることが可能です。

### ●保証について

保証書は必ず「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名 / 所在地」の記入をご確認いただき、製品とともにお受け取りください。お買い上げ日より 1 年間は保証期間です。保証書記載事項に基づき、無償修理等を保証させていただきます。修理等はお買い上げの販売店までご依頼ください。

お買い上げ時に「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名 / 所在地」が正しく記入されていない場合は、保証書が無効になり、無償修理を受けられないことがあります。記載内容が不十分でしたら、速やかに販売店にお問い合わせください。

改造など通常の使用範囲を超えた取扱いによる故障や、設計・製造以外の要因で起きた不都合は期間内であっても保証の対象外となります。

### ●故障かな?と思われる症状が出たときには

こちらの取扱説明書をもう一度お読みになり、接続や操作などをご確認ください。それでも改善されないときはお買い上げの販売店までお問い合わせください。調整・修理いたします。

## 梱包内容の確認

パッケージに次のものが入っていることを確認してください。

- MX200 本体
- 電源アダプター × 1
- MX-Edit/USB ドライバー CD-ROM × 1
- 取扱説明書 (英文、和文各 1 部)
- 保証書

万一足りないものがありましたら、購入された販売店までお問い合わせください。

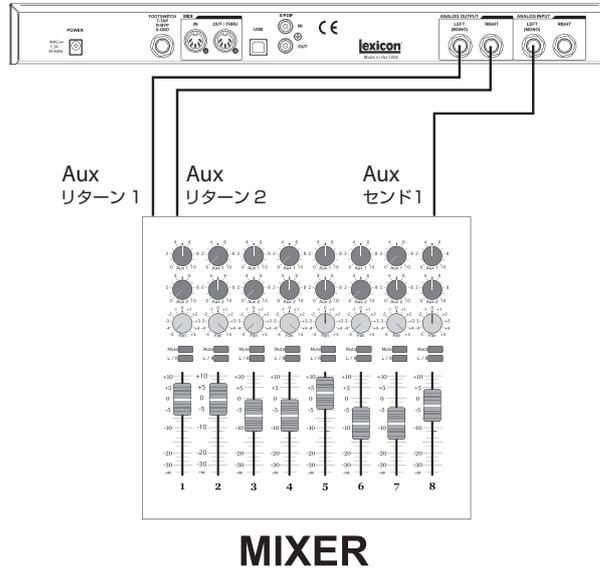


## ■クイックスタートガイド

この章では MX200 を素早く使用するためのシンプルなパラレル接続（ミキサーとの接続）を紹介します。詳しい機能や使用方法に関しては以降の章を参照してください。

### ●標準的なパラレル接続

- ①ミキサーのポストフェーダー AUX センド出力を MX200 の LEFT(MONO) 入力に接続します。
- ② MX200 の Left/Right 出力をミキサーのステレオ AUX リターン入力（もしくはステレオライン入力か任意のライン入力 2 系統）に接続します。



### ●機器の電源を入れる

- ①電源アダプターを MX200 の背面パネルにある電源コネクタに接続します。
- ②電源アダプターをコンセントに差し込みます。



### ●音声レベルの設定

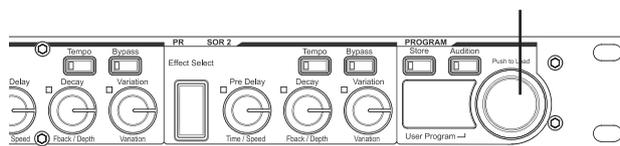
- ①入力しているソース（ボーカル、ギター、キーボードなど）に合わせてミキサーのゲインを調整します。
- ② AUX マスターレベルを 12 時の位置にくるように調整します。
- ③ MX200 の Input つまみを 12 時の位置にくるように調整します。
- ④ MX200 の Mix1 つまみと Mix2 つまみをそれぞれ右に回しきります（ウェット）。
- ⑤ミキサーに信号を入力し、ミキサーのゲインを調整します。
- ⑥ミキサーの AUX センドレベル（ポストフェーダー信号）を調整し、MX200 の入力レベルメーターの赤色 LED が一瞬点灯するレベルまで上げます。赤色 LED が常に点灯する状態は MX200 に送られている信号が大きすぎることをあらわしています。その場合はミキサーの AUX センドを下げてください。
- ⑦ AUX リターン 1/2 入力レベルを 12 時の位置にくるように調整、もしくは接続によってはステレオライン入力を 0dB の位置に調整します。
- ⑧お好みのエフェクト効果を得られるように AUX リターンレベルを調整します。

### ●プログラムの選択と読み込み

プログラム選択つまみを回し、読み込みたいプログラムを表示します。プログラム番号ディスプレイにプログラム番号が点滅表示されます。プログラム選択つまみを押すと点滅中のプログラムが読み込まれます。

MX200 は 99 個の固定プログラムおよび 99 個のユーザープログラムを搭載しています。ユーザープログラムが読み込まれている場合は、プログラム番号インジケーターの右下に小さな点が表示されます。

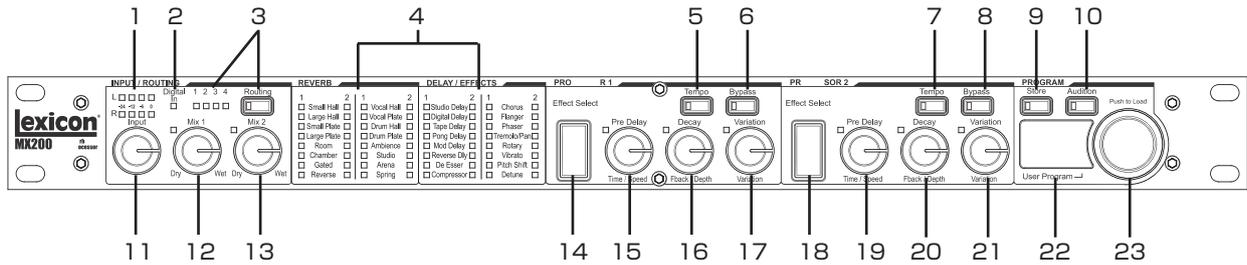
プログラム選択つまみ





## ■各部の機能と名称

### ●前面パネル



#### 1 : L/R: 入力レベルメーター

各入力チャンネルの信号レベルを表示する4セグメントのLEDメーターです。-24 dB、-12 dB、-6 dB、0 dBの範囲で表示します。

#### 2 : Digital In LED

S/PDIF デジタル入力を選択されている場合に点灯します。

#### 3 : Routing スイッチ / LED

信号のルーティングを選択するスイッチです。選択中のルーティングを1~4のLEDで示します。

#### 4 : リバース / エフェクター LED

選択中のリバース / エフェクターを表示するLEDです。プロセッサー1で選択中のエフェクターを緑色LED、プロセッサー2で選択中のエフェクターを赤色LEDで示します。

#### 5 : Tempo スイッチ (プロセッサー 1)

ディレイタイムを設定するスイッチです。設定する時間に合わせて2回スイッチを叩く(タップする)ことでディレイタイムを設定できます。

#### 6 : Bypass スイッチ (プロセッサー 1)

選択中のエフェクターをバイパスまたはミュートするスイッチです。

#### 7 : Tempo スイッチ (プロセッサー 2)

ディレイタイムを設定するスイッチです。設定する時間に合わせて2回スイッチを叩く(タップする)ことでディレイタイムを設定できます。

#### 8 : Bypass スイッチ (プロセッサー 2)

選択中のエフェクターをバイパスまたはミュートするスイッチです。

#### 9 : Store スイッチ

設定済みのプログラムをユーザープログラムとして保存するためのスイッチです。

#### 10 : Audition スイッチ

MX200 本体に内蔵されているオーディオサンプルを再生するスイッチです。Store スイッチとAudition スイッチを同時に押し、システムメニューが起動します。

#### 11 : Input つまみ

アナログ入力信号 (LEFT/RIGHT) の入力レベルを調整するつまみです。

#### 12 : Mix1 つまみ

プロセッサー1のウェット/ドライ・ミックスを調整するつまみです。

#### 13 : Mix2 つまみ

プロセッサー2のウェット/ドライ・ミックスを調整するつまみです。

#### 14 : Effect Select スイッチ (プロセッサー 1)

プロセッサー1に読み込むエフェクターを選択するスイッチです。

#### 15 : Pre Delay つまみ (プロセッサー 1)

プロセッサー1に読み込むリバースのPRE DELAY、およびその他のエフェクターの第1パラメーターを調整するつまみです。

#### 16 : Decay つまみ (プロセッサー 1)

プロセッサー1に読み込むリバースのDECAY、およびその他のエフェクターの第2パラメーターを調整するつまみです。

#### 17 : Variation つまみ (プロセッサー 1)

プロセッサー1のLIVELINESS、DIFFUSION およびその他のエフェクターの第3パラメーターを調整するつまみです。

#### 18 : Effect Select スイッチ (プロセッサー 2)

プロセッサー2に読み込むエフェクターを選択するスイッチです。

#### 19 : Pre Delay つまみ (プロセッサー 2)

プロセッサー2に読み込むリバースのPRE DELAY、およびその他のエフェクターの第1パラメーターを調整するつまみです。

#### 20 : Decay つまみ (プロセッサー 2)

プロセッサー2に読み込むリバースのDECAY、およびその他のエフェクターの第2パラメーターを調整するつまみです。

#### 21 : Variation つまみ (プロセッサー 2)

プロセッサー2のLIVELINESS、DIFFUSION およびその他のエフェクターの第3パラメーターを調整するつまみです。

#### 22 : プログラム番号インジケーター

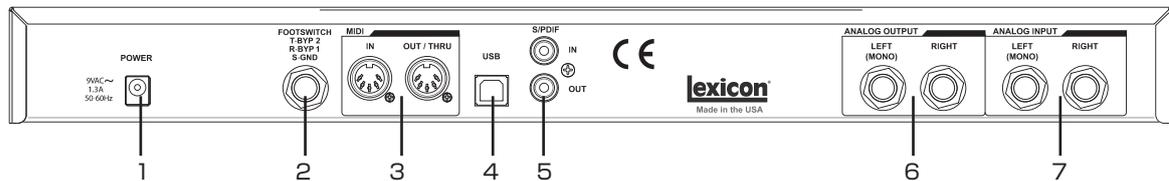
選択中のプログラムの番号を表示します。ユーザープログラムが読み込まれている場合は、右下に小さな点が表示されます。

#### 23 : プログラム選択つまみ

エフェクターの編集や本体の設定を行っている場合、つまみを回すとページのスクロール、押すと項目の選択が行えます。



●背面パネル



**1：電源コネクター**

AC100V、50/60Hzで動作します。付属の電源アダプターを接続してください。

**2：FOOTSWITCH: フットスイッチ接続端子**

2 ボタン式フットスイッチを接続する標準フーンジャックの接続端子です。

**3：MIDI IN, OUT/THRU: MIDI 接続端子**

MIDI 制御用の 5 ピン MIDI DIN 端子です。MIDI IN と MIDI OUT / THRU を装備しています (MIDI インプリメンテーション・チャートは 29 ページを参照)。

**4：USB 接続端子**

コンピューターと接続するための USB コネクターです。コンピューター制御用ソフトウェア「MX-Edit」や他のソフトウェアでのプラグインとして起動する場合に使用します。接続には標準の USB ケーブルを使用してください。USB でコンピューターに接続すると、前面パネルのプログラム番号インジケータに、「US」の文字ががしばらくの間点灯します。

**5：S/PDIF: デジタル入出力端子**

S/PDIF コネクターのデジタル入出力端子です。44.1 kHz/48 kHz のサンプリングレートに対応し、デジタル入出力が確立すると前面パネルの Digital In LED が点灯します。

※ MX200 に 44.1 kHz/48 kHz 以外のサンプリングレートのデジタル機器を入力すると、動作異常が発生する可能性があります。また、S/PDIF ケーブルを抜く場合は、事前にアナログ入力に切り替える (システムメニューの「入カソース選択」(20 ページ) でアナログに切り替え)、もしくは両方のエフェクターをバイパスしてから行ってください。

**6：ANALOG OUTPUT: アナログ出力端子**

バランス仕様、標準フーンジャック (3P) のアナログ出力端子です。アンバランス接続時でも信号損失が発生しにくいサーボ・バランスを採用しています。システムメニューの「出力モード選択」(20 ページ) をモノに設定すると、L/R をモノサミングした信号をアナログ出力の LEFT 端子から出力できます。

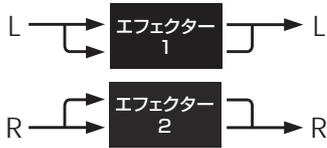
**7：ANALOG INPUT: アナログ入力端子**

バランス仕様、標準フーンジャック (3P) のアナログ入力端子です。LEFT のみに接続した場合は、LEFT および RIGHT に入力信号を分配します。



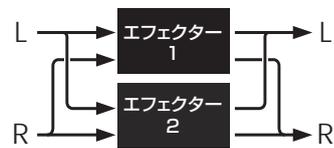
## ■ルーティング

MX200 は 2ch の入出力システムを搭載したマルチエフェクターです。接続する機器や用途に合わせてデュアルモノ、カスケード、デュアルステレオ (パラレル)、モノスプリットの 4 つのルーティングを選択できます。



### ①デュアルモノ

L と R 個別にエフェクター処理を行う構成です。L チャンネルの入力信号がエフェクター 1、R チャンネルの入力信号がエフェクター 2 で処理され、各チャンネルが独立して出力されます。



### ③デュアルステレオ (パラレル)

L チャンネルおよび R チャンネルの入力信号をそれぞれ分岐して両方のエフェクターに送り、処理後の信号をミックスして出力する構成です。



### ②カスケード

L と R の入力信号を並列してエフェクター 1、エフェクター 2 の順に送り、信号処理を行う構成です。



### ④モノスプリット

L チャンネルの入力信号をエフェクター 1、R チャンネルの入力信号をエフェクター 2 に送り、処理後の信号をミックスして出力する構成です。

## ■接続の構成

MX200 はパラレルおよびシリアルのエフェクト・プロセッサとして使用でき、接続する機器や用途に合わせて最適な接続方法を選択できます。

### ●パラレルとシリアル

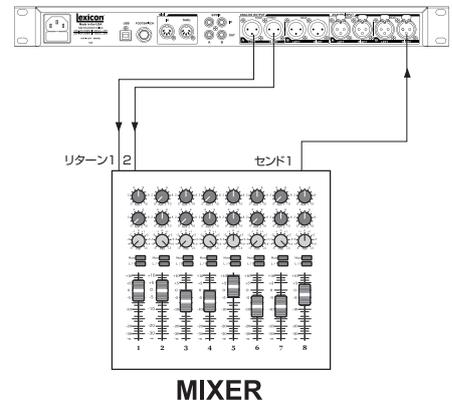
パラレル接続では、MX200 のエフェクターを通過した (ウェット) 信号と、未加工の (ドライ) 信号が同時にミキサーなどに送られます。ミキサーではウェット / ドライミックスの調整が可能です。空間系エフェクター (リバーブやディレイ) と一部のモジュレーション系エフェクター (コーラスなど) に有効な接続方法です。

シリアル接続では、全ての信号は MX200 のエフェクターを通過します (ウェット)。出力の調整は、MX200 の Mix1 / Mix2 つまみで行います。ダイナミクス系エフェクター (コンプレッサー、ディエッサー、イコライザーなど) と多くのモジュレーション系エフェクター (トレモロ、ビブラート、ロータリーなど) に使用される接続方法です。

### ●パラレル接続のセットアップ例

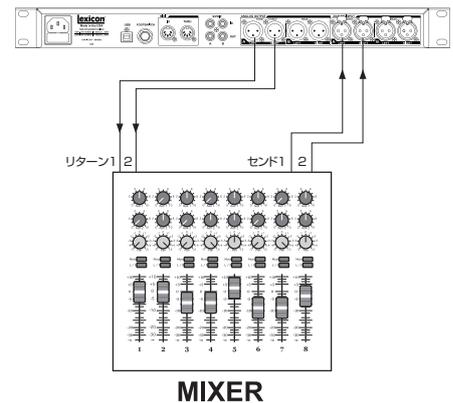
#### ・ミキサー ~ モノ IN、ステレオ OUT

- ① Routing スイッチで「2」または「4」を選択します (その他のルーティングも選択可能です)。
- ② ミキサーのポストフェーダー AUX 出力を MX200 の LEFT (MONO) 入力に接続します。
- ③ MX200 の LEFT / RIGHT 出力をミキサーのステレオ AUX リターン入力 (もしくはステレオライン入力か任意のライン入力 2 系統) に接続します。
- ④ 入力しているソース (ボーカル、ギター、キーボードなど) に合わせてミキサーのゲインを調整します。
- ⑤ AUX マスターレベルを 12 時の位置にるように調整します。
- ⑥ MX200 の Input レベルを 12 時の位置にるように調整します。
- ⑦ MX200 の Mix1 つまみと Mix2 つまみを右に回しきります (ウェット)。
- ⑧ ミキサーの AUX センドレベル (ポストフェーダー信号) を調整し、MX200 の入力レベルメーターの赤色 LED が一瞬点灯するレベルまで上げます。赤色 LED が常に点灯する状態は MX200 に送られている信号が大きすぎることをあらわしています。その場合はミキサーの AUX センドを下げてください。
- ⑨ AUX リターンレベルを 12 時の位置にるように調整、もしくは接続によってはステレオライン入力を 0dB の位置に調整します。
- ⑩ お好みのエフェクト効果を得られるように AUX リターンレベルを調整します。



・ミキサー ～デュアルモノ

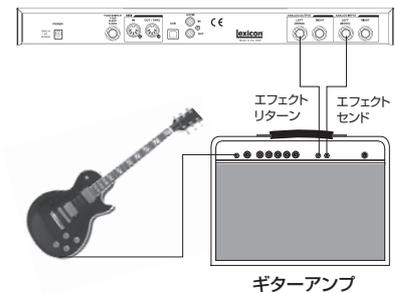
- ① Routing スイッチで「1」または「4」を選択します。(その他のルーティングも選択可能です)。
- ② ミキサーの AUX1 出力を MX200 の LEFT 入力に接続します。
- ③ ミキサーの AUX2 出力を MX200 の RIGHT 入力に接続します。
- ④ MX200 の LEFT/RIGHT 出力をミキサーの AUX1 および 2 リターン入力 (もしくはステレオ AUX L/R リターン入力) に接続します。
- ⑤ 入力しているソース (ボーカル、ギター、キーボードなど) に合わせてミキサーのゲインを調整します。
- ⑥ MX200 の Mix1 つまみと Mix2 つまみをそれぞれ右に回しきります (ウェット)。
- ⑦ MX200 の Input レベルを 12 時の位置にくるように調整します。
- ⑧ ミキサーの AUX リターンレベルを 12 時の位置にくるように調整します。
- ⑨ ミキサーの AUX1 および 2 センドレベルを調整し、MX200 の入力レベルメーターの赤色 LED が一瞬点灯するレベルまで上げます。必要に応じて MX200 の Input つまみを調整します。
- ⑩ お好みのエフェクト効果を得られるように AUX センドレベルを調整します。



●シリアル接続のセットアップ例

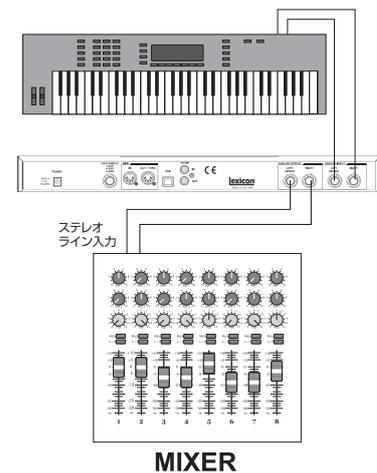
・ギター ～ エフェクトループ

- ① Routing スイッチで「2」を選択します (その他のルーティングも選択可能です)。
- ② ギターをアンプの入力に接続します。
- ③ アンプのエフェクトループセンドまたはプリアンプアウトを MX200 の LEFT 入力に接続します。
- ④ MX200 の LEFT 出力をアンプのエフェクトループリターンまたは入力に接続します。
- ⑤ MX200 の Mix1 つまみと Mix2 つまみをそれぞれ 12 時の位置にくるように調整します。
- ⑥ MX200 の Input つまみを調整し、MX200 の入力レベルメーターの赤色 LED が一瞬点灯するレベルまで上げます。
- ⑩ お好みのエフェクト効果を得られるように Mix1 つまみと Mix2 つまみを調整します。



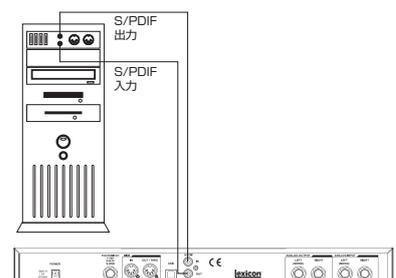
・楽器 ～ インラインセットアップ

- ① Routing スイッチで「2」を選択します (その他のルーティングも選択可能です)。
- ② 楽器を MX200 の LEFT/RIGHT 入力に接続します。(モノ信号は LEFT 入力に接続します)
- ③ MX200 の LEFT/RIGHT 出力をそれぞれ、ミキサーのチャンネルまたはステレオライン入力に接続します。
- ④ MX200 の Input つまみを 12 時の位置にくるように調整します。
- ⑤ MX200 の Mix1 つまみと Mix2 つまみをそれぞれ 12 時の位置にくるように調整します。
- ⑥ MX200 の Input つまみを調整し、MX200 の入力レベルメーターの赤色 LED が一瞬点灯するレベルまで上げます。
- ⑩ お好みのエフェクト効果を得られるように Mix1 つまみと Mix2 つまみを調整します。



・スタジオ ～ デジタルセットアップ

- ① Routing スイッチで「2」を選択します (その他のルーティングも選択可能です)。
- ② デジタル機器 (サウンドカード、オーディオインターフェース、ミキサーなど) の S/PDIF 出力を MX200 の S/PDIF IN に接続します。
- ③ 接続するデジタル機器がクロックマスターとして設定されており、サンプリングレートが 44.1kHz/48kHz であることを確認します。デジタル入出力が確立すると、MX200 の Digital In LED が点灯します。





## ■プログラムの選択と読み込み

①プログラム選択つまみを回して希望のプログラムを選びます。

選択したプログラム番号はプログラム番号インジケータに表示され、読み込まれるまで点滅します。

インジケータの番号の右下に表示される点は、そのプログラムがユーザープログラムであることを示します。



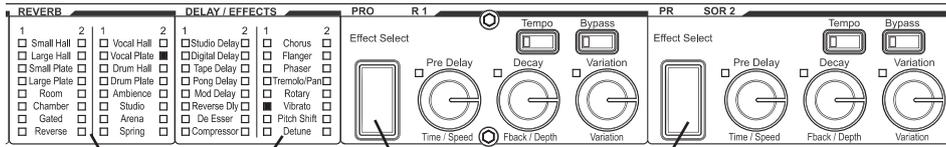
②プログラム選択つまみを押してプログラムを読み込みます。表示が点滅から点灯に変わります。

システムメニューの「プログラム・オートロード (Lo)」でオートロードを有効 (On) に設定している場合は、プログラムを選択すると同時に自動的に読み込まれます (20 ページ参照)。

## ■エフェクターの変更

各プログラムには変更可能なエフェクターが用意されており、用途に合わせてエフェクターを変更できます。

エフェクターの選択には、Effect Select スイッチを使用します。プロセッサー 1 または 2 の Effect Select スイッチ (▲/▼) を押すと、選択されたリバーブ/エフェクター項目の LED が点灯します。



選択されたエフェクターの LED が点灯します (プロセッサー 1: 緑、プロセッサー 2: 赤)

Effect Select スイッチ

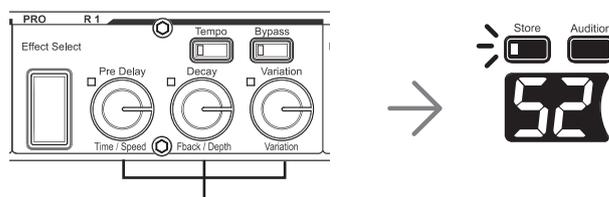


## ■パラメーターの編集

各プログラムでは、必要に応じてエフェクターのパラメーターが調整できます。パラメーターの編集は、プログラム選択つまみと3つのパラメーター調整つまみ (PreDelay / Decay / Variation) を使って行います。以下の手順を参照して編集を行ってください。

- ①プログラム選択つまみを回して、プログラムを選択します。
- ② Effect Select スイッチ (▲/▼) を押して、編集したいエフェクターを選択します。
- ③ 3つのパラメーター調整つまみ (PreDelay / Decay / Variation) を回してパラメーターの調整をします。

この時、インジケーターにはパラメーターの数値が表示され、同時に Store スイッチの LED が点灯してプログラムに修正が行われたことを示します。



パラメーター調整つまみ

- ④プログラムの設定を保存します。〔「プログラムの保存」(13 ページを参照)〕

## ■その他プログラムの設定

### ●ルーティングの変更

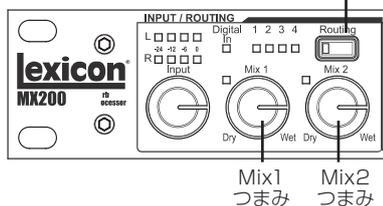
Routing スイッチではルーティングの変更 (1 ~ 4) が行えます。

- 1: デュアルモノ 2: カスケード 3: デュアルステレオ (パラレル) 4: モノスプリット

### ●ミックスの調整

Mix1 または Mix2 つまみを使って、プログラムごとにウェット/ドライ・ミックスの調整が行えます。

Routing スイッチ



Mix1 つまみ Mix2 つまみ

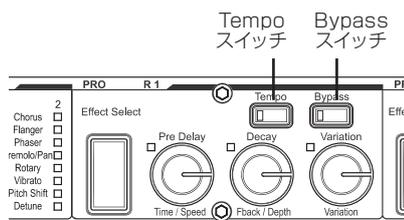
### ●Tempo スイッチ

Tempo スイッチは、ディレイタイムの設定と確認を行うスイッチです。プログラムの読み込みを行うと Tempo スイッチは設定されたディレイタイムの速度で点滅します。設定する時間に合わせて2回スイッチを叩く (タップする) ことでディレイタイムを設定できます。

※外部 MIDI 機器からディレイタイム制御を行うことも可能です。外部 MIDI 機器を検知すると Tempo スイッチが点灯し、ディレイタイムが外部 MIDI 機器で制御されていることを示します。

### ●Bypass スイッチ

Bypass スイッチを押すと、プロセッサごとにエフェクターをバイパスできます。





## ■ オーディション機能

オーディション機能は、プリセット音源を使用してプログラムの試聴ができる機能です。外部からソースを入力することなく、エフェクトの効果を確認することができます。設定方法は以下の通りです。

- ① Audition スイッチを長押ししてオーディション機能呼び出します。

この時 Audition スイッチの LED が点滅し、プログラム番号インジケータの表示が「AU」から「AL」に変わります。



- ② プログラム選択つまみを回して、好みの音源を選択します。

インジケータの表示と、サンプルの内容は以下の通りです。

AL：全ての音源の試聴。Audition スイッチを押すと A1～A5 のサンプルを切り替えてプレイします。

A1：ドラムスティックの音

A2：スネアドラム

A3：キックドラム

A4：女性ボーカル

A5：アコースティックギター・アルペジオ

- ③ Store スイッチを押して保存します。

オーディション機能の設定後は、Audition スイッチを押すと設定したサンプル音源をプレイします。

※オーディション機能の音源にエフェクトを施した状態で保存することはできません。

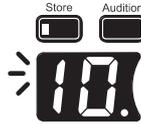


## ■プログラムの保存

プログラムの設定やパラメーターの調整など、実際の用途に応じて設定を完了したら、プログラムの保存を行ってください。保存は全てユーザープログラム上に行います。

- ① Store スイッチを 1 回押すと保存メニューが呼び出されます。

プログラム番号インジケータに「ST」が表示された後、ユーザープログラム番号が表示されます。この時、番号の右下にはユーザープログラムを示す点が点灯します。



- ② プログラム選択つまみを回して保存先のユーザープログラム番号を選択します。

- ③ Store スイッチをもう 1 度押すと保存を実行します。

※変更を保存しない場合は、フロントパネルのいずれかのボタンを押して、プログラムに戻ります。



・Ambience : アンビエンス・リバーブ (ステレオ)

アンビエンスは、減衰が目立たない中小規模の部屋の音響特性をシミュレートしたリバーブです。ボーカル、ギター、打楽器などによく使用されます。

・Studio : スタジオ・リバーブ (ステレオ)

スタジオ・リバーブは、音響管理が行き届いたレコーディング・スタジオの音響特性をシミュレートしたリバーブです。

・Arena : アリーナ・リバーブ (ステレオ)

アリーナ・リバーブは、屋内競技場やスタジアムなどの大規模空間の音響特性を再現します。2次反射時間が長く、高域成分が少ないという特徴があり、中域・低域主体の残響音が得られます。「特殊効果」など、非常に長い残響時間が必要な用途に最適です。ただし、明瞭度が低下することがあり、音数の多いミックスには向いていません。

・Spring : スプリング・リバーブ (モノ入力 / ステレオ出力)

スプリングに接続された1組のピエゾ素子を一方はスピーカー、もう一方はマイクロホンとして動かせることによって生じるスプリング・リバーブをモデリングしたものです。独特の響きがあり、クラシック・ロックやロカビリーのギター・サウンドに適しています。

・リバーブのパラメーター

Pre Delay	直接音から1次反射音までの時間です。通常は10～25 msに設定すると最も自然な効果が得られます。音数が多いミックスや混濁感があるミックスの場合、値を大きくすると明瞭度が増し、各楽器の分離がよくなります。
Decay	残響時間です。設定値を大きくすると残響時間が長くなり、音場感が大きくなりますが、明瞭度が低下する場合があります。設定値を小さくすると残響時間が短くなり、明瞭な音場感や微妙な残響効果が得られます。
Liveliness	後部残響音の高域成分です。設定値を大きくすると、高域が増加して明るい残響音を得られ、小さくすると低域が増強されて暗い残響音を得られます。
Diffusion	初期反射音の密度です。設定値を大きくすると初期反射音の密度が高くなり、小さくすると密度が低くなります。実際の空間では、不規則な壁は拡散率が高く、広い平壁は拡散率が低い傾向にあります。ドラムやパーカッションの場合は大きめに設定してください。
Shape	ホール・リバーブの全体的な空気感を設定します。「Shape」は残響音のエンベロープ形状を表わし、設定値を最も小さくすると、残響は急激に増加した後、すぐに減衰します。設定値を大きくするにつれて残響の増加速度が緩やかになり、中間に設定すると、大ホールの残響特性を再現したエンベロープ形状が得られます。
Boing	スプリング・リバーブの物理的特性であるスプリングの振動量を調整するパラメーターです。

パラメーター調整つまみによる各リバーブの設定範囲

リバーブ	つまみ 1 (Pre Delay)	つまみ 2 (Decay)	つまみ 3 (Variation)
Small Hall	Pre Delay 0 - 100 ms	Decay 0 - 99	Liveliness 0 - 99
Large Hall	Pre Delay 0 - 200 ms	Decay 0 - 99	Liveliness 0 - 99
Small Plate	Pre Delay 0 - 100 ms	Decay 0 - 99	Liveliness 0 - 99
Large Plate	Pre Delay 0 - 200 ms	Decay 0 - 99	Liveliness 0 - 99
Room	Pre Delay 0 - 100 ms	Decay 0 - 99	Liveliness 0 - 99
Chamber	Pre Delay 0 - 100 ms	Decay 0 - 99	Liveliness 0 - 99
Gated	Pre Delay 0 - 200 ms	Decay 0 - 60	Diffusion 0 - 99
Reverse	Pre Delay 0 - 200 ms	Decay 0 - 60	Diffusion 0 - 99
Vocal Hall	Pre Delay 0 - 200 ms	Decay 0 - 99	Liveliness 0 - 99
Vocal Plate	Pre Delay 0 - 200 ms	Decay 0 - 99	Liveliness 0 - 99
Drum Hall	Pre Delay 0 - 100 ms	Decay 0 - 99	Liveliness 0 - 99
Drum Plate	Pre Delay 0 - 100 ms	Decay 0 - 99	Liveliness 0 - 99
Ambience	Pre Delay 0 - 100 ms	Shape 0 - 99	Liveliness 0 - 99
Studio	Pre Delay 0 - 100 ms	Decay 0 - 99	Liveliness 0 - 99
Arena	Pre Delay 0 - 200 ms	Decay 0 - 99	Liveliness 0 - 99
Spring	Pre Delay 0 - 100 ms	Decay 0 - 99	Boing 0 - 99

※インジケーター上では、100以上の数値は100の位を省略し、  
数字の間に「.(ドット)」を付けて表示します。

(例: 100 → 「0.0」、115 → 「1.5」、200 → 「0.0」)



## ●ディレイ

ディレイは、原音を繰り返す効果を行うエフェクターです。ディレイの出力を入力に戻すと（フィードバック）、エコーになります。1つの繰り返し音が一連の繰り返し音になり、繰り返すごとに徐々に弱くなります。

### ・Studio Delay : スタジオ・ディレイ (ステレオ)

最大 2.5 秒のステレオ・ディレイです。信号が入力されるとディレイ出力を減衰させるダッカーを備え、ディレイの繰り返し音によって原音が不明瞭になるのを防げます。

### ・Tape Delay : テープ・ディレイ (モノ入力 / ステレオ出力)

最大 5 秒のモノラル・ディレイです。磁気テープをループ状にし、録音ヘッドと再生ヘッドを近接配置した特殊なテープ・レコーダによって生み出すテープ・ディレイをモデリングしています。テープ速度の調整でディレイタイムもコントロールできます。テープ・ディレイはテープ・レコーディングと同様、高域成分の損失が大きいという特徴があります。

### ・Pong Delay : ピンポン・ディレイ (モノ入力 / ステレオ出力)

最大 5 秒のモノラル・ディレイです。ディレイの繰り返し音の定位を左右に移動します。原音の定位は元の位置（センター）から変わりません。

### ・Modulated Delay : モジュレーション・ディレイ (ステレオ)

最大 2.5 秒のステレオ・モジュレーション・ディレイです。LFO（低周波発振器）によってディレイの繰り返し音にコーラス効果を生み出します。サウンドに変化を持たせたい場合に効果的です。

### ・Reverse Delay : リバース・ディレイ (モノ入力 / ステレオ出力)

最大 2.5 秒のモノラル・ディレイです。録音済みのテープをテープ・ディレイで逆から再生し、その効果を録音するという、スタジオ・テクニックのディレイを再現します。逆回転風のディレイ音になり、信号の前にディレイが鳴るような感じが得られます。

## ・ディレイのパラメーター

Tempo	現在設定されているディレイタイムを BPM(1 分間に何回ビートが刻まれるか) で表示します。Tempo スイッチ、MIDI からの受信で調整が可能です。Tempo スイッチをタップした後にディレイタイムを調節するには、Time Range の数値を調整してください。
Time Range	Tempo に対応するディレイタイムを表示します。12 時の位置(値:36)で、Tempo スイッチの LED と同期します。値が大きくなるほどディレイタイムが長くなります。(下表参照)
Feedback	ディレイの出力信号をディレイ入力に戻すことによって得られるディレイの繰り返し回数です。一連の繰り返し音は、繰り返すごとに徐々に弱くなります。設定値を大きくすると繰り返し回数が多くなり、小さくすると少なくなります。このパラメーターを最大に設定すると Repeat Hold が ON になり、ディレイの繰り返し音が無限に再生されますが、ディレイへの入力はミュートされます。Repeat Hold は、スタジオ・ディレイ、デジタル・ディレイ、およびピンポン・ディレイでのみ有効です。
Ducker Threshold	スタジオ・ディレイおよびデジタル・ディレイは、信号が入力されたときにディレイの繰り返し音を 6 dB 減衰させるダッカー機能を備え、減衰することでディレイ効果を保ちながら原音との混濁を防ぐことができます。このパラメーターはダッカーが動作を開始する入力レベルを設定します。
Smear	「スミア」(信号の劣化や周波数損失)の量です。この値を大きくするにつれて、ディレイの各繰り返し音が原音よりも不明瞭になります。特に Tape Delay に最適です。
Tap Ratio	ピンポン・ディレイの 2 つのディレイタイムです。各タップのパラメーターはディレイ・テンポのパーセントで設定します。
Depth	モジュレーション・ディレイのモジュレーションの強さ(深さ)です。この設定により、ディレイの繰り返し音に対して微妙なコーラス効果から深いコーラス効果まで得られます。

ディレイのコントロール値

	つまみ 1 (Pre Delay)	つまみ 2 (Decay)	つまみ 3 (Variation)
Studio Delay	Time Range 0 - 72	Feedback 0 - 99 +RH	DuckThreshold - 70 - 0dB
Digital Delay	Time Range 0 - 72	Feedback 0 - 99 +RH	DuckThreshold - 70 - 0dB
Tape Delay	Time Range 0 - 72	Feedback 0 - 99	Smear 0 - 99
Pong Delay	Time Range 0 - 72	Feedback 0 - 99 +RH	Tap Ratio 0 - 22
Mod Delay	Time Range 0 - 72	Feedback 0 - 99	Mod Depth 0 - 99
Reverse Delay	Time Range 0 - 72	Feedback 0 - 99	Smear 0 - 99

※ Feedback の値を 100 以上にすると、インジケータ上では「Repeat Hold」を示す「rh」を表示します。  
(スタジオ・ディレイ、ピンポン・ディレイのみ)

Time Range 値

値	ノート値
1	sixteen note
4	triplet sixteenth
6	dotted sixteenth
12	eighth note
20	triplet eighth
24	dotted eighth
36	quarter note
48	triplet quarter
54	dotted quarter
72	half note

● dbx ダイナミクス

MX200 は、世界的に定評のある dbx のテクノロジーを採用したディエッサーとコンプレッサーを搭載し、スタジオ・クオリティーのダイナミクス処理を実現します。

・ De-Esser : ディエッサー (モノラル、ウェットのみ)

ボーカルのサ行などの子音で発生する歯擦音を低減するエフェクターです。

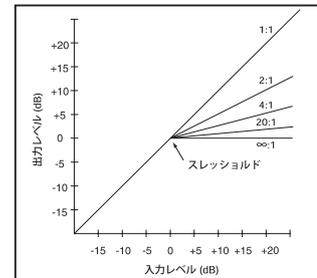
※ドライ信号を出力しません。パラレル接続 (8 ページ) でのセットアップをおすすめします。

・ Compressor : コンプレッサー (モノラル、ウェットのみ)

信号のダイナミックレンジを制御します。一般に、ベースやドラムのサウンドをタイトにする場合や、ボーカルの粒立ちをそろえる場合に役立ちます。

コンプレッサーは、信号レベルが設定したスレッシュホールドを超えると、レシオによって設定された量だけ出力レベルを抑制します。例えばスレッシュホールドを -12 dB、レシオを 4:1 に設定した場合、信号レベルが -12 dB を超えると、入力信号が 4 dB 増加しても出力信号は 1 dB しか増加しません。その処理を行うことで信号のレベル変動が抑えられますが、全体的な音量は原音よりも小さくなります。小さくなった音量はゲイン補正によって補うことで聴感上の音圧をあげることができます。

※ドライ信号を出力しません。パラレル接続 (8 ページ) でのセットアップをおすすめします。



・ dbx ダイナミクスのパラメーター

Frequency Range	ディエッサーを動作させる周波数帯域を設定します。1600 Hz ~ 10 kHz の範囲 (耳障りな歯擦音が発生する最も一般的な帯域) で設定します。
Bandwidth	帯域幅 (周波数帯域の Q) の設定です。値を大きくするにつれて帯域幅が狭くなり、ディエッシング効果が目立たなくなります。
Compression Ratio	スレッシュホールドを超えた信号レベルの減衰量を設定します。例えば 2:1 に設定した場合、スレッシュホールドを 2dB 超えた入力信号は圧縮されて 1dB だけ大きく出力されます。∞ : 1 に設定するとリミッターとして動作します。
Threshold	コンプレッサーが動作し始める信号レベルを設定します。例えば、スレッシュホールドを -10dBu に設定した場合、-10dBu を超えた信号は圧縮されますが、-10dBu 以下の信号はそのままのレベルで通過します。
Makeup Gain	コンプレッサーによって減衰したゲインの補正に使用します。深くコンプレッションをかけてからゲインで信号を増幅すれば聴感上の音圧を上げることができます。

dbx ダイナミクスのコントロール値

	つまみ 1 (Pre Delay)	つまみ 2 (Decay)	つまみ 3 (Variation)
De-Esser	Ratio 1.2 : 1 - Inf : 1	Freq Range 1 - 41	Bandwidth 1 - 6
Compressor	Threshold - 70dB - 0dB	Ratio 1.2 : 1 - Inf : 1	Gain 0dB - +12dB

ディエッサー周波数値

値	周波数 (Hz)
1	1600
2	1680
3	1760
4	1840
5	1920
6	2000
7	2100
8	2200
9	2300
10	2400
11	2500
12	2630
13	2760
14	2890

値	周波数 (Hz)
15	3020
16	3150
17	3320
18	3490
19	3660
20	3830
21	4000
22	4200
23	4400
24	4600
25	4800
26	5000
27	5260
28	5520

値	周波数 (Hz)
29	5780
30	6040
31	6300
32	6640
33	6980
34	7320
35	7660
36	8000
37	8400
38	8800
39	9200
40	9600
41	10k

ディエッサー帯域幅

値	帯域幅
1	1/4 Oct
2	1/8 Oct
3	1/12 Oct
4	1/16 Oct
5	1/20 Oct
6	1/24 Oct



## ●モジュレーション系エフェクター

### ・Chorus : コーラス (ステレオ)

原音からごくわずかにピッチをずらした信号を原音に加えることによって、豊かなサウンドを生み出します。一般に、トラックのサウンドを太くしたい場合やギターに胴鳴り感を加えたい場合、ボーカルに厚みを持たせたい場合に使用します。

### ・Flanger : フランジ (ステレオ)

本来、2 台のテーブ・レコーダーで同じプログラムを同時に録音や再生し、一方のテーブ・リール (フランジ) に手で圧力を加えて回転数をずらすことによって作り出された効果です。その結果、位相のキャンセルと強調が繰り返して起こり、金属的な特徴的なサウンドが得られます。

### ・Phaser : フェイザー (ステレオ)

LFO (低周波発振器) によって周波数ノッチを自動的に上下に変化させることにより、「櫛形フィルター」のような周期的に振動する効果を生み出します。キーボード (特にパッド系プリセット) やギターに最適です。

### ・Tremolo/Pan : トレモロ / パン (ステレオ、ウェットのみ)

信号の振幅にリズムカルな変化を生み出します。トレモロは両方のチャンネルの振幅に同時に働き、パンは各チャンネルの振幅に交互に働きます。

※ドライ信号を出力しません。パラレル接続 (8 ページ) でのセットアップをおすすめします。

### ・Rotary : ロータリー (モノラル、ウェットのみ)

教会などで使用されていた電子オルガンに荘厳なビブラート / クワイア効果を加えるために開発されたもので、スピーカー自体が回転することで特殊な音響効果を生み出します。最も有名な Leslie Model 122 は、高音用のホーンと低音用のローターというそれぞれ逆方向に回転する 2 つの回転スピーカーを搭載しており、2 段階の回転速度切り替え (低速・高速) が可能です。スピーカーの回転速度の変化によって非常に幻想的なサウンドになります。

ロータリー・エフェクターは、Leslie タイプのキャビネットをモデリングしたもので、入力信号を高域信号と低域信号に分け、各信号にピッチシフト、トレモロ、およびパンを同期させてかけることによって回転効果を生み出します。実際のロータリースピーカーと同様に、高域 (ホーン) と低域 (ローター) の周波数は逆方向に「回転」します。ホーンとローターの回転速度は独立して調整可能で、オリジナル機の構成部品の慣性をシミュレートした加速度・減速度特性が得られるように設計されています。

※ドライ信号を出力しません。パラレル接続 (8 ページ) でのセットアップをおすすめします。

### ・Vibrato : ビブラート (ステレオ、ウェットのみ)

信号のピッチを一定の速度で上下に変化させることで滑らかに振動するサウンドを生み出します。

※ドライ信号を出力しません。パラレル接続 (8 ページ) でのセットアップをおすすめします。

### ・Pitch Shift : ピッチシフト (ステレオ)

入力信号の周波数スペクトルをシフトします。音のピッチを変えることにより、微妙なデチューンから最大 ± 2 オクターブ幅でのピッチシフトまで、さまざまな効果が得られます。MX200 のピッチシフトは、全てのスケール音を同じ間隔でシフトするクロマチック・シフターです。ギターやモノフォニック・シンセに非常に効果的であるほか、ボーカルに特殊効果が必要な場合にも役立ちます。

### ・Detune : デチューン (ステレオ)

原音からわずかにピッチをずらした信号を加えて、音に厚みを持たせます。「ダブル・トラッキング」のシミュレートに最適です。また、コーラスの代わりに使用すれば、モジュレーションの速度によって生じる音揺れの少ないコーラス・サウンドが得られます。

## ・モジュレーション系エフェクターのパラメーター

Speed	モジュレーションの速度を設定します。
Depth	効果の強さを設定します。LFO 出力のみに働き、個々の波形の出力には影響しません。
Voices	コーラスで重ねていく信号 (ボイス) の数を設定します。
Regeneration	フィードバックを得るために入力に戻すモジュレーション信号の量を表します。値を大きくするほど共振が強くなります。
Phase	振幅または深さを左右同時に変化させる (Tremolo) か、左右交互に変化させる (Pan) かを設定します。
Stereo Spread	ロータリーまたはデチューンのステレオイメージ (広がり感) を設定します。
Doppler	ロータリースピーカーの回転によって生じるドップラー効果を調整します。
Shift Amount	原音からのピッチシフトの量を設定します。
Down/Up Shift	原音からのピッチシフトを上方向にするか、下方向にするかを設定します。
Cutoff Frequency	ローパス・フィルターのカットオフ周波数を設定します。低めに設定すると、高周波数レスポンスをロールオフします。
Left Shift Amount	Left 入力信号のデチューンの量を設定します。
Right Shift Amount	Right 入力信号のデチューンの量を設定します。



モジュレーション系エフェクターのコントロール値

	つまみ 1 (Pre Delay)	つまみ 2 (Decay)	つまみ 3 (Variation)
Chorus	Speed 0 - 99	Depth 0 - 99	Voices 0 - 99
Flanger	Speed 0 - 99	Depth 0 - 99	Regen 0 - 99
Phaser	Speed 0 - 99	Depth 0 - 99	Regen 0 - 99
Tremolo/Pan	Speed 0 - 99	Depth 0 - 99	Phase 0 - 99
Rotary	Speed 0 - 99	Doppler 0 - 99	Spread 0 - 99
Vibrato	Speed 0 - 99	Depth 0 - 99	Phase 0 - 99
Pitch Shift	Shift 0 - 24	Down/Up dn/UP	Cutoff Freq 0 - 55
Detune	Shift 0 - 48	Shift 0 - 48	Spread 0 - 99

カットオフ周波数値

値	周波数 (Hz)
0	1600
1	1680
2	1760
3	1840
4	1920
5	2000
6	2100
7	2200
8	2300
9	2400
10	2500
11	2630
12	2760
13	2890
14	3020
15	3150
16	3320
17	3490
18	3660
19	3830
20	4000

値	周波数 (Hz)
21	4200
22	4400
23	4600
24	4800
25	5000
26	5260
27	5520
28	5780
29	6040
30	6300
31	6640
32	6980
33	7320
34	7660
35	8000
36	8400
37	8800
38	9200
39	9600
40	10k
41	10.5k

値	周波数 (Hz)
42	11k
43	11.5k
44	12k
45	12.5k
46	13.2k
47	13.9k
48	14.6k
49	15.3k
50	16k
51	16.8k
52	17.6k
53	18.4k
54	19.2k
55	20k



## ■システムメニュー

MX200 全体の設定はシステムメニューで行います。「MIDI チャンネル」「プログラム・オートロード」「入力ソース選択」「デジタルアウト/ドライトラック」「出力モード選択」「ファクトリープログラム・バンク選択」「バイパスモード選択」の設定項目のほか、設定を工場出荷時の状態に戻す「ファクトリー・リセット」も用意しています。設定の変更は全てのプログラムに影響します。以下の手順を参照し、設定を行ってください。

- ① Audition スイッチの LED が点滅するまで Store スイッチと Audition スイッチを同時に押します。  
プログラム番号インジケータに「Ut」が表示されてシステムメニューが起動します。



- ② Audition スイッチを押して設定項目を切り替えます。プログラム番号インジケータの表示と設定項目は以下の通りです。

- Ch: MIDI チャンネル
- Lo: プログラム・オートロード
- in: 入力ソース選択
- dt: デジタルアウト/ドライトラック
- Op: 出力モード選択
- Fb: ファクトリープログラム・バンク選択
- bp: バイパスモード選択
- Fr: ファクトリー・リセット

- ③ プログラム選択つまみで設定値を選択した後、Store スイッチを押して設定を保存します。

## ●システムメニューの詳細

### ・MIDI チャンネル [Ch]

MIDI プログラムチェンジ・メッセージと、MIDI CC メッセージを受信する MIDI チャンネルを選択します。設定値は「1 ~ 16」、「AL (All Channels)」、「OF (Off)」です。「OF (Off)」に設定した場合、メッセージは無視されます。

### ・プログラム・オートロード [Lo]

プログラムを手動で読み込むか、選択と同時に自動的に読み込むかを設定します。設定値は、「On」または「OF (Off)」です。「On」に設定すると、オートロード機能が有効となります。

### ・入力ソース選択 [in]

MX200 はアナログ入力と S/PDIF デジタル入力を装備していますが、通常の設定では S/PDIF デジタル入力を優先して受信するため、使用する入力に応じてデジタル入力の On、Off を切り替える必要があります。設定値は「di (Digital)」または「An (Analog)」です。「An (Analog)」に設定すると、デジタル入力を無効にし、アナログ入力のみを有効にします。この設定により、全ての入力（アナログおよび S/PDIF デジタル）に機器を接続したまま、状況に応じて入力を切り替えることが可能です。

### ・デジタルアウト/ドライトラック [dt]

MX200 は、エフェクト処理された信号をアナログ出力に送ると同時に、エフェクト処理前のデジタル信号を S/PDIF デジタル出力に送ることができます。この機能は、レコーディングの際、エフェクト処理された音をモニターしながらエフェクター処理前の音をデジタル録音したい場合に便利です。エフェクト処理前の信号をデジタル出力に送るには、「On」に設定してください。設定値は、「On」または「OF (Off)」です。

※この機能は、入力ソースがアナログ信号に設定されている場合のみ働き、S/PDIF 入力端子からのデジタル入力信号には働きません。デジタル入力信号は、ドライトラックの設定に関係なく通常どおりエフェクト処理されます。

### ・出力モード選択 [Op]

ステレオ出力もしくはモノ出力を選択できます。設定値は「St (Stereo)」または「no (Mono)」です。デフォルトはステレオ出力「St」が選択されています。モノ出力「no」を選択すると、LEFT および RIGHT の信号はサミングされ、モノ信号として LEFT に出力されます。

※モノ出力「no」を選択すると、Panner Delay や Pong Delay のようなエフェクトにおいて、レフト～ライトを移行する音響効果を反映できません。





・ファクトリープログラム・バンク選択 [Fb]

MX200 のファクトリープログラムには、パラレル・バンクとシリアル・バンクの 2 種があります。パラレル・バンクは、MX200 を AUX センド / リターンでミキサーと接続している場合に使用します。また MX200 に直接信号ソース（楽器など）を入力し、出力がミキサーやアンプの入力チャンネルに接続されている場合は、シリアル・バンクを使用します。Mix1、Mix2 の設定はパラレル・バンクとシリアル・バンクによって異なり、適正なウェット / ドライ ミックスが行われます。

デフォルトはシリアル・バンクが設定されています。ミキサーと MX200 を AUX センド / リターンで接続する場合は、パラレル・バンクを選択しなおしてください。

設定値は「SE (Serial)」または「PA (Parallel)」です。

・バイパスモード選択 [bp]

通常の設定において Bypass スイッチを押すと、エフェクターの効果をバイパスし、未処理（ドライ）の信号を出力します。この項目でバイパスモードを「no」に設定すると Bypass スイッチがミュートの働きをします（何も出力されません）。

設定値は「dr (Dry)」または「no (No Signal)」です。

**注意：バイパスモードを「no」に設定し、ルーティング 2（カスケード）を設定すると、全ての信号がミュートされ、何も出力されないこととなります。**

・ファクトリー・リセット [Fr]

ユーザー設定およびユーザープログラムを全て消去して、工場出荷時の状態に戻します。以下の手順に従ってください。

- ① Audition スイッチの LED が点滅するまで Store スイッチと Audition スイッチを同時に押します。  
プログラム番号インジケータに「Ut」が表示されてシステムメニューが起動します。
- ② プログラム番号インジケータに「Fr」が表示されるまで Audition スイッチを数回押します。
- ③ Store スイッチを押し、LED を点滅させます。

**警告：この時にもう一度 Store スイッチを押し続けると、全ての設定およびプログラム設定が消去されます（ファクトリープログラムや、MX-Edit Editor/Librarian を使用してコンピューターに保存したプログラムには影響しません）。**

- ④ 再度 Store スイッチを押し続けます。プログラム番号インジケータに「rS」が点滅した後、  
「1.8 (バージョン・ナンバー)」 → 「1.」 → 「US」 → 「1.」  
が順に表示されます。処理が完了し、工場出荷時の状態に戻ります。





## ■ MX-Edit Editor/Librarian (Windows 版および Mac 版)

付属の MX-Edit Editor/Librarian ソフトウェアを使用すると、MX200 で使用するプログラムの作成、編集、比較、保存、および読み込みを Windows または Mac 上で行うことができます。MX200 本体へのプログラムの保存は数が限られていますが、コンピュータ上に保存を行えば容量が許す限りほぼ無限のプログラムの作成・保存が可能です。USB または MIDI 接続を介して MX200 に読み込むことができます。

MX-Edit Editor/Librarian の Mac 版と Windows 版の機能はほとんど同じですが、Editor ウィンドウの位置が Windows 版では固定であるのに対して、Mac 版では自由に移動可能である点が異なります。その他の違いや機能については、付属の CD に収録されている readme.txt ファイルを参照してください。

### ● MX-Edit ソフトウェアのインストール (Windows 版)

#### ・最小システム要件

MX-Edit ソフトウェアをインストールする前に、お使いのコンピュータが以下の最小システム要件を満たしていることを確認してください。

- ・ CPU: Pentium-III 500 M Hz 以上
- ・ OS: Windows XP Service Pack 2 以上

MX-Edit ソフトウェア (Windows XP) をインストールするには、付属の CD を CD-ROM ドライブに挿入します。インストーラーが自動で起動しますので、画面に表示される指示に従ってインストールを行ってください。インストール中、USB ポートに MX200 を接続するように要求されます。MX200 の電源を入れ、標準の USB ケーブルでコンピュータと接続してください。

**重要:** MX-Edit ソフトウェアおよびドライバーのインストールの際に使用した USB ポート以外のポートに MX200 を接続する場合、USB ドライバー・インストーラーの再実行が必要になることがあります。その場合のために、MX-Edit ソフトウェアのインストール中に USB ドライバー・インストーラーへのショートカットを「スタート」メニューに登録しておく便利です。ドライバーを再インストールする必要がある場合は、「スタート」→「全てのプログラム」→「Lexicon」→「MX-Edit」→「Reinstall Drivers」の順にクリックし、画面に表示される指示に従って再インストールしてください。

### ● MX-Edit ソフトウェアのインストール (Mac 版)

#### ・最小システム要件

MX-Edit ソフトウェアをインストールする前に、お使いのコンピュータが以下の最小システム要件を満たしていることを確認してください。

- ・ OS: OS X 10.4

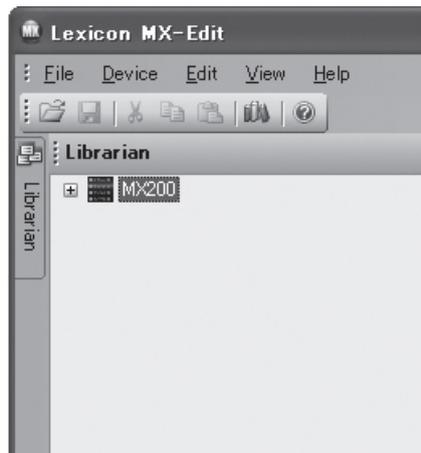
MX-Edit、VST、および Audio Units ソフトウェアをインストールするには、付属の CD を CD-ROM ドライブに挿入します。ディスク・アイコンが表示されたらダブルクリックします。MX200.dmg.hqx ファイルをダブルクリックすると、インストーラーが起動します。後は、画面に表示される指示に従ってインストールを進めてください。

スタンドアローンの MX-Edit ソフトウェアは「Applications」フォルダー、MX-Edit Audio Unit は「Components」フォルダー、MXEdit VST は「VST」フォルダーにそれぞれ配置されます。



### ●クイックスタートガイド

MX-Edit を最初に起動すると、「MX-Edit」ウィンドウの左側に「MX-Edit Librarian」が表示され、その一番上に MX アイコンが表示されます。また、現在のプログラムの編集パネルも開きます。



MX アイコンをダブルクリックすると、リストが展開します。「Factory」または「User」アイコンをダブルクリックすると、固定プログラムまたはユーザープログラムのリストが表示されます。固定プログラムは変更できないため、固定プログラム・リストは常に同じですが、ユーザープログラム・リストには MX200 本体にユーザープログラムとして保存されているプログラムが表示されます。



プログラム名をダブルクリックすると、「Program Editor」ウィンドウでそのプログラムが開きます。プログラムの設定値は、「Program Editor」ウィンドウのつまみおよびスイッチに反映されます。

選択したプログラムは、MX200 本体にも読み込まれます。また、「Program Editor」ウィンドウで行った変更は、MX200 本体のプログラムにも同時に反映されます。



## ● MX-Edit Librarian

MX-Edit Librarian には、MX200 本体に現在読み込まれている固定プログラムまたはユーザープログラムがリスト表示されます。MX-Edit は、起動時に USB (または MIDI) を介して MX200 と通信し、MX200 本体のメモリーに保存されている固定プログラムおよびユーザープログラムに関する全ての情報を読み込みます。



「Librarian」ウィンドウにプログラムを表示するには、左上隅の「MX200」タブをクリックし、「Factory」または「User」アイコンをダブルクリックします。ライブラリーが展開し、固定プログラムおよびユーザープログラムのリストが表示されます。固定プログラムは上書き保存できないため、固定プログラム・リストは常に同じですが、ユーザープログラム・リストには MX200 本体に保存されているユーザープログラムが表示されます。

## ● プログラムを開く

次のいずれかの方法でプログラムを開きます。

- ・MX-Edit Librarian から Factory または User プログラムを開く場合は、「Librarian」ウィンドウに表示されているそのプログラム番号をダブルクリックします。
- ・コンピュータに保存されている (MX-Edit Librarian に表示されていない) プログラムを開く場合は、「File」をクリックし、「Open Program」を選択します。「ファイルを開く」ダイアログのデフォルトのフォルダーは「My Documents」です (あるいは、前回プログラムを開いた時のフォルダー)。プログラムをダブルクリックするとロードされます。
- ・MX200 から現在使用中の設定とともにプログラムを開く場合は、「Device」メニューの「Open Current Program」を選択します。MX200 の現在の設定が全て読み込まれ、「Program Editor」パネルに表示されます。

## ● 「Program Editor」ウィンドウ

「Program Editor」ウィンドウでは、MX200 またはコンピュータに保存されているプログラムの表示、比較、編集を素早く簡単に行うことができます。

MX-Edit は、Input コントロール、システムメニューを除き、MX200 の前面パネルと同様のつまみおよび機能を備えています。

アクティブな「Program Editor」ウィンドウで行った変更は全て、MX200 本体にリアルタイムで反映されます。MX-Edit と MX200 は双方向性を備えているため、MX200 の前面パネルで行った変更も「Program Editor」ウィンドウにリアルタイムで反映されます。

プログラムを開くとソフトウェアが更新され、選択したプログラムの名前が「Program Name」フィールドに表示されます。その際、現在の編集内容を保存するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。読み込んだプログラムの設定は、「Program Editor」ウィンドウのつまみおよびスイッチに反映されると同時に MX200 本体側にも読み込まれ、Audition スイッチでの試聴が可能になります。



## ●プログラムの編集

### ・ルーティング・オプションの選択

「INPUT/ROUTING」エリア内のルーティング選択スイッチをクリックすると、ルーティング・オプションのリストが表示されます。読み込むリスト項目を選択しクリックするとルーティングが変更され、ルーティング選択スイッチの右にルーティング図が表示されます。同時に、スイッチの上にルーティング名が表示されます。

### ・エフェクターの選択

プロセッサー 1 またはプロセッサー 2 のエフェクターを変更するには、「PROCESSOR 1」または「PROCESSOR 2」エリア内のエフェクター選択スイッチをクリックします。表示されたエフェクターのリストからロードするリスト項目を選択、クリックします。エフェクター選択ボタンの上にエフェクター名が表示され、そのエフェクターのデフォルト値に応じて MX-Edit のつまみの位置、レイアウト、パラメーターが変化します。



### ・つまみの調整方法

MX-Edit は、編集を簡単かつ直感的に行えるように、以下の 3 通りのつまみの調整方法に対応しています。

#### マウス - 回転

つまみの外側の縁（影が付いた部分）にカーソルを置き、マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。つまみの上に表示されている白いラインがマウス・カーソルの位置に移動します。つまみの外周に沿ってカーソルを動かすと、それに従って白いラインも動きます。微調整を行うには、マウスの左ボタンを押し続けながらカーソルをつまみから離れた場所に移動して操作します。つまみから離れた距離に関係なく、白いラインは引き続きカーソルの動きに従って動きます（この操作は Windows の場合です。Mac では、Option キーを押しながら微調整を行います）。

#### マウス - アップダウン

マウス・カーソルをつまみの中央に移動すると、上下両方向の矢印に変わります。マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けると、カーソルが消えます。その状態でマウスを上を動かすとつまみが右に回転し、マウスを下に動かすとつまみが左に回転します。キーボードの Ctrl キーを押しながらマウスを移動すると調整値が 10 倍になり、編集を素早く行うことができます（Windows の場合）。

#### 矢印キー

つまみをクリックして選択します。この状態で、キーボードの上矢印キー（または右矢印キー）を押すとつまみが右に回転し、下矢印キー（または左矢印キー）を押すとつまみが左に回転します。これは、微調整を行う場合に非常に便利な方法です。また、キーボードの Ctrl キーを押しながら矢印キーを押すと調整値が 10 倍になり、編集を素早く行うことができます（Windows の場合）。

### ・Tempo

エフェクターでディレイを選択すると、そのエフェクターの「Tempo」スイッチが有効になり、そのテンポに合わせてスイッチが点滅し始めます。Time Range パラメーターを調整すると、テンポの点滅速度を基準にしてミリ秒単位で正確に符割りされ、16 分音符や付点 8 分音符などの音符が Time Range つまみの上に表示されます。「Tempo」スイッチは元のテンポで点滅し続けますが、実際のディレイ・タップは Time Range 値に表示されている速度で発生します。

テンポ値を変更するには、マウス・カーソルを「Tempo」スイッチの上に置いて 2 回クリックします（MX200 の前面パネルでの操作と同様）。MX200 本体および「Program Editor」ウィンドウの「Tempo」スイッチが新しいテンポで点滅し始めます。

ディレイ以外のエフェクターをロードした場合、「Tempo」スイッチは無効になります。

### ・Bypass

「Bypass」スイッチを ON にする（および選択したエフェクターをバイパスする）には、「Bypass」スイッチをクリックします。

### ・プログラム名の変更

プログラム名を作成または変更するには、プログラム名のフィールド内を 1 回クリックします。プログラム名が反転表示されますので、テキスト・ボックス内に新しい名前を入力してください。

フィールド内をクリック





## ■プログラムの接続したコンピュータへの保存

プログラムに変更を加えると、アクティブな「Program Editor」ウィンドウのタイトルバー上のプログラム名の横にアスタリスク (\*) が表示され、MX200 の前面パネルの Store スイッチの LED も点灯します。これは、読み込んだプログラムに変更が加えられていることを表しています。

変更したプログラムをコンピューターのハードディスクに保存するには、「File」をクリックし、「Save」または「Save As」を選択し、ファイル名を入力します。プログラムのデフォルトの保存先は「My Documents」です。別の場所に保存するには、別のフォルダーを指定するか、新しいフォルダーを作成してください (例: C:\¥Documents and Settings ¥username ¥My Documents ¥MX200 Presets)。「保存」ボタンを押すと保存されます。

また、「Program Editor」ウィンドウを閉じると同時にプログラムを保存することも可能です。ロードしたプログラムに変更が加えられている場合、変更内容を保存するかどうかを尋ねるダイアログ・ボックスが表示されます。変更を保存する場合は「はい (Y)」、保存しない場合は「いいえ (N)」、「Program Editor」ウィンドウに戻る場合は「キャンセル」をクリックします。この方法で変更を保存すると、現在のプログラムは上書きされます。(ロードしたプログラムの設定を残したまま) 別の名前の新しいファイルとしてプログラムを保存するには、「File」をクリックし、「Save As」を選択します。

MX200 のプログラムのファイル拡張子は「.m2p」です。プログラム・ファイルは、コピー、移動、電子メールへの添付など、通常の文書やファイルと同様に扱うことができます。ただし、ファイルの破損を防ぐために、MX-Edit Editor/Librarian ソフトウェア以外のアプリケーションでは開かないでください。

## ■プログラムの MX200 本体への保存

MX-Edit Librarian のいずれかのユーザープログラム番号 (および MX200 内部のメモリーに対応する位置) にプログラムをセーブする場合、以下の手順で行ってください。

- ① 保存を行うプログラムを開きます。
- ② 「Program Editor」ウィンドウをアクティブにした状態で「Device」をクリックし、「Store Program」を選択します。
- ③ 「Store to Device」ダイアログが表示されたら、保存するプログラム名および保存先のユーザープログラム番号を指定します。
- ④ 保存を実行する場合は「Store」を、操作を取り消す場合は「Cancel」をクリックしてください。この保存方法を行うと元のユーザープログラムが上書きされますのでご注意ください。

「Librarian」ウィンドウ内のユーザープログラム名を変更するには、その名前を右クリックし、「Rename」を選択します。新しい名前を入力し、「Enter」を押すと変更が保存されます。

※固定プログラムは上書きできません。変更したプログラムを保存するにはユーザープログラム番号を保存先として指定してください。

## ■アーカイブ

アーカイブは、MX200 の現在の状態をコンピューター上に保存する機能です。MX200 をアーカイブすると、プリセットおよびグローバル設定が全てコンピューターに送信され、ファイルに保存されます。アーカイブを復元した場合、MX200 はアーカイブを行った時点と全く同じ状態に復元します。たとえば、気に入ったスタジオ・プリセットはそのまま残しておきながら、ライブ SR 用のセットアップを作成するといった使い方も可能です。MX-Edit の「Backup」機能を使って MX200 の設定をアーカイブしておけば、どのような変更を加えても、前のプログラムや設定を再現する手間がなくなります。以下の手順で行ってください。

- ① 「Device」をクリックし、「Backup」を選択します。
- ② メッセージボックスが表示されますので、アーカイブを中止するには、「いいえ (N)」、アーカイブを続行する場合は「はい (Y)」をクリックしてください (アーカイブには数分間かかることがあります)。

アーカイブを実行すると、バルク・ダンプの実行を示す進行状況表示バーが、MXEdit 画面の一番下の部分に表示されます。

- ③ 全ての MX200 データの受信が完了すると、「Save Backup」ウィンドウが表示されます。デフォルトのファイル名は、当日の日付です (例: Backup 2011 年 6 月 1 日)。ファイル拡張子は、「.m2a (MX200 アーカイブ・ファイル)」です。「保存 (S)」をクリックすると、バックアップ・アーカイブ・ファイルが保存されます。

保存したアーカイブを復元するには、「Device」をクリックし、「Restore」を選択します。ファイル名の指定を要求されたら、MX200 アーカイブ・ファイルを選択し、「開く (O)」をクリックします。

以下のメッセージが表示されます。

*This operation will overwrite all existing presets and system setting in your MX200.*

*Are you sure you want to continue ?*

「はい (Y)」をクリックすると、MX-Edit は、MX200 アーカイブを MX200 に送信し、本体内の全てのデータアーカイブ・データに置き換えます。

※アーカイブ・ファイルを復元する前に、現在の MX200 の状態を別のアーカイブとして保存することをお勧めします。





## ■ハードウェア・プラグインとして MX200 を使用する

付属の VST (Audio Units) ソフトウェアを使用し、MX200 をハードウェア・プラグインとして利用することができます。これにより、DAW 環境でオートメーション機能やトータル・リコール機能を活用しながら、CPU に負荷をかけることなく、Lexicon のリバーブおよびエフェクターを利用できます。使用方法は、信号処理のために音声信号が MX200 を経由する以外は、他の一般的な DAW プラグインとほとんど同じです。

### ・最小システム要件

最低 2 系統の入力と 4 系統の音声出力を装備した I/O ハードウェア

Windows Pentium-III 500 M Hz 以上、Windows XP Service Pack 2 以上、および VST 対応のレコーディングソフトウェア

Mac OSX 10.4、および VST または Audio Units 対応のレコーディングソフトウェア

## ●MX-Edit VST プラグインのインストール

※ MX-Edit ソフトウェアをインストール済みの場合、VST および Audio Units ソフトウェアもインストールを完了しています。このセクションは飛ばして操作を行ってください。

### ・Windows XP の場合

付属の CD を CD-ROM ドライブに挿入し、画面に表示される指示に従います (自動実行機能が無効になっている場合は、CD の内容を参照し、setup.exe ファイルをダブルクリックしてください)。

### ・Mac の場合

付属の CD を CD-ROM ドライブに挿入し、ディスク・アイコンが表示されたらダブルクリックします。MX200.dmg.hqx ファイルをダブルクリックすると、インストーラーが起動します。後は、画面に表示される指示に従ってインストールを進めてください。

## ●MX200 の接続

### ・USB 接続

MX200 の電源を入れ、標準の USB ケーブルでコンピューターに接続します (Windows XP の場合は必ず、ソフトウェアをインストールした時と同じ USB ポートに MX200 を接続してください)。

### ・オーディオ接続

MX200 をハードウェア・プラグインとして使用する場合、最低でも MX200 との 2 チャンネルのセンド/リターンに加えて、2 チャンネルのモニター用出力が可能な数のオーディオ I/O を装備したハードウェアが必要です。

レイテンシーを小さくし、最大限の音響性能を得るには、S/PDIF 入出力を使って MX200 とコンピューターのオーディオ I/O を接続することをお勧めします。お使いのオーディオ I/O に S/PDIF 端子がない、もしくは他の機器が接続されている場合は、アナログ入出力を使って接続しても問題ありません。

重要:MX200 は、サンプリングレートが 44.1 kHz または 48 kHz のデジタル音声信号に対応しています。それ以外のサンプリングレート (96 kHz など) のデジタル機器を MX200 の S/PDIF 入力に接続すると、動作異常が発生する可能性があります。問題の発生を防ぐために、サンプリングレートは必ず 44.1 kHz または 48 kHz に設定してください。

## ●ソフトウェアの設定

コンピューター内部ではなく、MX200 本体で音声処理を行うため、MX200 との間で音声信号の送受信を行えるように DAW (デジタル・オーディオ・ワークステーション) のルーティングを設定します。

設定方法は各ソフトウェアの取扱説明書を参照するか、以下の手順に従ってください。ソフトウェアごとに設定が若干異なりますが、基本原理は同様です。

### ・センド/リターン経路のセットアップ方法

- ①メイン・ミックス (マスター) バスとは別のステレオ・バス (または 2 系統の音声バス) を作成します。
- ②そのバスを、MX200 に接続したオーディオ I/O ハードウェアの出力 (S/PDIF 出力または 2 系統のアナログ出力) にルーティングします。
- ③ VST または Audio Units の「Send Effects Routing」オプションで、MX200 のエフェクター・センドを、ステップ 1 で作成したステレオバス (またはバスのペア) に送ります。
- ④ MX200 に接続した入力 (S/PDIF 入力または 2 系統のアナログ入力) に対応する入力を持つ 2 つの音声トラックを作成します。
- ⑤それらのトラックをメイン・ミックス (マスター) バスにルーティングします。

上記の手順に従ってセットアップした場合、作成したバス・ペアに音声経路がつながり、それを介して MX200 に音声を送られます。処理された信号は、MX200 からオーディオ I/O ハードウェアを介して、ステップ 4 で作成した 2 つの音声トラックに送られます。また、他の音声やプラグイン・エフェクターと同様に、メイン・ミックス・バスからモニターできます。



**● MX200 PLUG-IN ウィンドウの使用方法**

DAW で Lexicon MX200 プラグインを開くと、「Program Editor」ウィンドウのインスタンスが表示されます。MX200 プラグイン・ソフトウェアは、他のプラグインと同様に使用することができます。セッション・リコールやオートメーションなども、他の VST プラグインや Audio Unit プラグインと同様に機能します。主な違いは、音声処理がコンピューター上ではなく MX200 本体で行われることです。

また、MX200 は物理的な機器であることから、プラグイン・ウィンドウのインスタンスは 1 つしか開けません（物理機器 1 台につき 1 つ）。複数のプラグイン・ウィンドウを開こうとすると、以下のメッセージが表示されます。

このメッセージは、MX200 の MIDI ポートが DAW またはその他のアプリケーションによって使用されている場合にも表示されます。MX200 のプラグイン・ウィンドウの機能は、24 ページの「Program Editor」ウィンドウとほぼ同様です。



重要：MIDI ポート・エラーメッセージ



このメッセージが表示された場合は、MX200 が正常に接続されていない、もしくは USB MIDI ポートがアプリケーションによって使用されていることが原因として考えられます。Cubase などのホストによっては、デフォルトで MX200 の MIDI ポートをオープンする場合があります。このときは、アプリケーションの MIDI デバイス設定項目で「Lexicon MX200 Control」という名称のポートの接続を無効にする必要があります。



## ■ CC マッピング

Processor 1 Effect Type	CC 12
Processor 1 Bypass	CC 13
Processor 1 Pre Delay Knob	CC 14
Processor 1 Decay Knob	CC 15
Processor 1 Liveliness Knob	CC 16
Processor 1 Tempo	CC 17
Processor 1 Effect Mix	CC 26
Processor 2 Effect Type	CC 19
Processor 2 Bypass	CC 20
Processor 2 Pre Delay Knob	CC 21
Processor 2 Decay Knob	CC 22
Processor 2 Liveliness Knob	CC 23
Processor 2 Tempo	CC 24
Processor 2 Effect Mix	CC 27
Effect Routing	CC 28

## ■ MIDI インプリメンテーションチャート

Function		Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Channel	Default	X	1	
	Changed	X	1-16, Omni, Off	
Mode	Default		Mode 2	
	Messages	X	X	
	Altered		X	
Note Number	True Voice	X	X	
Velocity	Note ON	X	X	
	Note OFF	X	X	
After Touch	Keys	X	X	
	Channels	X	X	
Pitchbend		X	X	
Control Change		X	1-127	See MIDI CC list
Program Change	True #	X	0-98 = 1-99	See Program Mapping
	Bank Select	X	0	MIDI CC 32 Value 0 = Factory, Value 1 = User
System Exclusive		0	0	Lexicon Editor Only. Sys Ex channel follows MIDI channel except when MIDI channel is set to Off, where Sys Ex channel then receives on all channels.
System Common	Song Position	X	X	
	Song Select	X	X	
	Tune	X	X	
System Real Time	Clock	X	0	MIDI clock can set Delay Tempo.
	Commands	X	X	
Aux Messages		X	X	

0 = Yes

Mode 1: OMNI ON, POLY

Mode 2: OMNI ON, MONO

X = No

Mode 3: OMNI OFF, POLY

Mode 4: OMNI OFF, MONO



## ■プリセットリスト

プログラム番号	プログラム名	アプリケーション	プロセッサー 1 (P1)	プロセッサー 2 (P2)	ルーティング
1	BIG POP VOCAL	Vocal	Studio Delay	Vocal Hall	2
2	POP VOCALS	Vocal	Tape Delay	Studio Reverb	3
3	RETROVERB	Vocal	Tape Delay	Vocal Plate	2
4	CHORUS + PLATE	Vocal	Chorus	Plate	4
5	VOCAL HALL + PLATE	Vocal	Vocal Hall	Vocal Plate	4
6	EXTRA ROOMY	Live Sound	Room	Small Hall	2
7	TUNED ROOM	Live Sound	Detune	Room	2
8	ECHOVERB	Live Sound	Digital Delay	Small Hall	2
9	QUICKIE	Live Sound	Small Hall	Digital Delay	2
10	ACOUSTIC CHAMBER	Instrumental	<i>Tape Delay</i>	Chamber	2
11	AMBIENT CHAMBER	Instrumental	Ambience	Chamber	4
12	ACOUSTIC BLISS	Instrumental	Detune	Large Hall	4
13	GUITAR WORLD	Instrumental	Chorus	Modulated Delay	2
14	SPRINGTIME	Instrumental	<i>Tremolo/Pan</i>	Spring	2
15	GIANT Snare	Drums & Percussion	Studio Delay	Drum Hall	2
16	<b>SMOOTH DRY PLATE</b>	Drums & Percussion	Compressor	Drum Plate	2
17	<b>RICH DRUM HALL</b>	Drums & Percussion	Compressor	Drum Hall	2
18	BIG TIME	Special	Digital Delay	Large Hall	4
19	VOICE OF EVIL	Special	Pitch Shifter	Reverse	2
20	WAYBACK MACHINE	Special	Reverse Delay	Reverse	2
21	BIG VOCAL VERB	Vocal	Large Plate	Vocal Hall	2
22	TWO ROOMS	Vocal	Small Hall	Vocal Hall	1
23	BIG EASY	Vocal	Chorus	Vocal Hall	2
24	NASHVILLE	Vocal	Vocal Plate	Room	4
25	<b>LA-LA LAND</b>	Vocal	Compressor	Vocal Hall	2
26	<b>SMOOTH VOCALS</b>	Vocal	Compressor	Small Hall	2
27	<b>COMPRESSED VOX</b>	Vocal	Compressor	Vocal Hall	2
28	<b>NO "S" VOCALS</b>	Vocal	De-Esser	Vocal Plate	2
29	<b>DE-ESSER + COMPR</b>	Vocal	De-Esser	Compressor	2
30	<b>COMPRESSOR</b>	Vocal	Compressor	<i>Compressor</i>	4
31	<b>DE-ESSER</b>	Vocal	De-Esser	<i>De-Esser</i>	4
32	STUDIO DELAY	Vocal	Studio Delay	<i>Vocal Hall</i>	2
33	60'S DELAY	Vocal	Tape Delay	Spring	2
34	SLAPBACK	Vocal	<i>Detune</i>	Tape Delay	2
35	DELAY + VERB	Vocal	Studio Delay	Vocal Hall	1
36	VOCAL CHORUS	Vocal	Chorus	<i>Vocal Hall</i>	2
37	CHORAL HALL	Vocal	Chorus	Large Hall	2
38	TAPE CHORUS	Vocal	Tape Delay	Chorus	2
39	CORE US	Vocal	Chorus	Corus	1
40	DOUBLE TRACKS	Vocal	Detune	Chorus	2
41	SHIFTED ROOM	Vocal	PitchShift	Room	3
42	LIKE THAT!	Vocal	Pitch Shift	Vocal Hall	4
43	PLATE + HALL	Live Sound	Vocal Plate	Small Hall	1
44	VOCAL + INST 1	Live Sound	Vocal Hall	Studio	4
45	VOCAL + INST 2	Live Sound	Vocal Plate	Detune	4
46	VOCAL + INST 3	Live Sound	Vocall Hall	Small Hall	4
47	GET SMALL	Live Sound	Small Hall	Small Plate	4
48	ALIVE N' KICKING	Live Sound	Small Hall	Studio	4
49	MUY GRANDE	Live Sound	Drum Hall	Digital Delay	4
50	BIGGER BAND	Live Sound	Chorus	Studio Delay	2

※斜体のエフェクターは、固定プログラムではバイパスされます。

太文字のプログラムは、ウェット 100%でのみ有効です (例: **COMPRESSOR**)。



プログラム番号	プログラム名	アプリケーション	プロセッサー 1 (P1)	プロセッサー 2 (P2)	ルーティング
51	TAPS	Live Sound	Chorus	Tape Delay	2
52	TAP CHAMBER	Live Sound	Pong Delay	Chamber	2
53	SPACED OUT	Live Sound	Large Plate	Modulated Delay	2
54	DUAL HALLS	Instrumental	Large Hall	Small Hall	1
55	TRIED AND TRUE	Instrumental	Studio	Small Hall	4
56	MORE & MORE	Instrumental	Large Plate	Arena	4
57	SPRING STUDIO	Instrumental	Spring	Studio	4
58	HIT ME	Instrumental	Tape Delay	Studio	2
59	PRECISION DELAY	Instrumental	Digital Delay	Small Delay	2
60	MODULATED DELAY	Instrumental	Chorus	Modulated Delay	2
61	ROCK LEAD	Instrumental	Tape Delay	Small Plate	4
62	PONG VERB	Instrumental	Small Plate	Pong Delay	2
63	MOD-U-VERB	Instrumental	Vocal Plate	Chorus	2
64	<b>ROTO-VERB</b>	Instrumental	Drum Hall	Rotary Speaker	2
65	<b>ROTARY</b>	Instrumental	Rotary	<i>Room</i>	4
66	<b>HAM'N EGGS</b>	Instrumental	Tape Delay	Rotary	2
67	<b>VIBROLUX</b>	Instrumental	Rotary Speaker	Spring	1
68	SIDE BY SIDE	Instrumental	Tremolo	Panner	4
69	WOBLERS	Instrumental	Chorus	Small Plate	4
70	RHODES PANNER	Instrumental	Phaser	Tremolo/Panner	4
71	BREWED AWAKENING	Instrumental	Flanger	Tape Delay	1
72	JET FLANGE	Instrumental	Flanger	Arena	2
73	PHASE GATE	Instrumental	Gated	Phaser	4
74	PHASED PLATE	Instrumental	Phaser	Small Plate	2
75	PHAME	Instrumental	Phaser	Large Plate	1
76	PHASER TASER	Instrumental	Phaser	Digital Delay	2
77	DUALING GUITARS	Instrumental	Pitch Shifter	Pitch Shifter	4
78	THE LOW DOWN	Instrumental	Pitch Shifter	Modulated Delay	1
79	AND THEN SOME	Instrumental	Reverse Delay	Tremolo	2
80	<b>SQUISHED KICK</b>	Drums & Percussion	Compressor	Drum Hall	2
81	GATED SNARE	Drums & Percussion	Gated Reverb	Gated Reverb	3
82	SNARE DELAY	Drums & Percussion	Studio Delay	Drum Plate	2
83	DRUM DELAY	Drums & Percussion	Tape Delay	Drum Plate	2
84	DRUM ECHO	Drums & Percussion	Tape Delay	Small Hall	2
85	TEMPO GATE	Drums & Percussion	Studio Delay	Gated	2
86	FLANGE DRUMS	Drums & Percussion	<i>Studio Delay</i>	Flanger	2
87	TOM-TOM	Drums & Percussion	Studio Delay	Drum Hall	4
88	SNARE + TOMS	Drums & Percussion	Drum Hall	Room	4
89	DRUM PLATE/HALL	Drums & Percussion	Drum Plate	Drum Hall	4
90	VIBRATO	Special	Vibrato	Vibrato	4
91	VIBRA-SLAP	Special	Vibrato	Digital Delay	1
92	<b>SPIN CYCLE</b>	Special	Rotary	Tremolo/Panner	2
93	ROLE REVERSAL	Special	TremoloPan	Reverse	2
94	GET SOME	Special	Flanger	Reverse Delay	3
95	REWIND	Special	Chamber	Reverse	2
96	BACK AT YA	Special	Reverse Delay	Reverse	4
97	DELAY WARS	Special	Pong Delay	Modulated Delay	4
98	PITCH OUT	Special	Pitch Shifter	Pong Delay	2
99	HUH?	Special	Pitch Shifter	Vocal Plate	2

## ■ MX200 仕様

チャンネル数		2
デジタル入出力	端子・形式	RCA: S/PDIF、24bit
	サンプリングレート	48kHz
音声入力	端子・形式	標準フォーンジャック (3P)、電子バランス
	インピーダンス	20k $\Omega$ (バランス)
	最大レベル	+20dBu
音声出力	端子・形式	標準フォーンジャック (3P)、電子バランス
	インピーダンス	60 $\Omega$
	最大レベル	+20dBu
周波数特性		20Hz ~ 20kHz( $\pm$ 1dB)
ダイナミックレンジ		107dB 以上 (A ウェイト)
THD + N		0.007%以下 (20Hz ~ 20kHz)
A/D-D/A 変換		24bit、48kHz、内部 24bit 処理
電源		外部電源アダプター、AC100V、50/60Hz
寸法・質量 (突起物除く)		幅 483 × 高 45 × 奥行 137mm、EIA1U、1.7kg

2011年7月版

# HIBINO

<http://www.hibino.co.jp/>  
E-mail: [proaudiosales@hibino.co.jp](mailto:proaudiosales@hibino.co.jp)

ヒビノ株式会社 ヒビノプロオーディオセールス Div.

営業部  
〒108-0075 東京都港区港南3-5-12  
TEL: 03-5783-3110 FAX: 03-5783-3111

北海道オフィス  
〒063-0813 北海道札幌市西区琴似三条1-1-20  
TEL: 011-640-6770 FAX: 011-640-6776

大阪ブランチ  
〒564-0051 大阪府吹田市豊津町18-8  
TEL: 06-6339-3890 FAX: 06-6339-3891

名古屋オフィス  
〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-4-26  
TEL: 052-589-2712 FAX: 052-589-2719

福岡ブランチ  
〒812-0041 福岡県福岡市博多区吉塚4-14-6  
TEL: 092-611-5500 FAX: 092-611-5509